メッセージのレジュメ

２０２１年８⽉１５⽇ ルカの福⾳書５章１〜１１節

「でもおことばどおり、網をおろしてみましょう」 ⼤⻑幸⼀郎

○本⽇は８⽉１５⽇。⽇本にとっては終戦記念⽇。敗戦記念⽇。

○⽇本の周辺諸国にとっては⽇本から解放された喜びの⽇。

○本⽇はルカの福⾳書５章。宣教を開始されたイエス様が、４⼈の弟⼦を召される場⾯。

○４⼈とはシモンと呼ばれるペテロ、兄弟アンデレ、漁師仲間のヤコブと兄弟ヨハネ。

○⼤勢の群衆がイエス様のところに集まって来た。神様の⾔葉を聞くため。

○ゲネサレ湖の岸辺に⽴っていたイエス様は、⼀艘の船に乗り込み、少しこぎ出させた。

○イエス様はその船の上から群衆に向かってメッセージを語った。半円形劇場のように。

○話を終えられたイエス様は、船の持ち主のシモンに⾔った。「深みに漕ぎ出して、網をおろして⿂をとりなさい」。イエス様の唐突とも⾔える⾔葉。おそらくシモンも⼾惑った。

○ガリラヤ湖では、普通、まだ暗いうちに船を出して漁をする。しかも、漁場が決まっていて、岸からそんなに離れていない場所で⿂が獲れる。

○すでにその⽇は不漁に終わっていた。しかも、次の⽇のために網を洗っていた。

○イエス様が命じたことは、⻑年の漁師としての常識に反すること。もう明るくなっているし、深みでは⿂は獲れない。

○もし、皆さんがシモンの⽴場だったらどうしますか？

○イエス様の⾔われるようにした結果は、６節にある。沢⼭の恵みが与えられた。

○シモンは、どうしてイエス様の⾔葉に従うことができたか？

○８節を⾒ると、シモンがイエス様の⾔葉を聞いて、葛藤や疑っていたことがわかる。

○それでもなぜ、シモンはイエス様の⾔葉に応えることができたのか？

○５節。『するとシモンが答えて⾔った。「先⽣。私たちは、夜通し働きましたが、何⼀つとれませんでした。でもおことばどおり、網をおろしてみましょう」』。

○⼆つの反応がある。⼀つは、シモンのように「でもおことばどおり」と答える⼈。

○別の反応は「おことばですが」と⾔う答え。「先⽣。私たちは、夜通し働きましたが、何

⼀つとれませんでした。おことばですが、網をおろして漁をすることはできません」。

○ローマ⼈への⼿紙１０章１７節。「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです」。ヘブル⼈への⼿紙１１章１節「信仰とは、実体は神の⾔葉にあると信じ、まだ⽬に⾒えないものでも、固く信じて疑わないこと」。

○もしシモンが「おことばですが・」と答えていたなら、彼の⼈⽣はどうなっていたのか？